

議 題：平成27年度 宮城県試験研究機関評価委員会 第1回工業関係試験研究機関評価部会

日 時：2015/10/28

場 所：宮城県知事公館

出席者：当日配付資料2参照

1 開会

2 委嘱状交付 省略

3 挨拶 宮城県産業技術総合センター所長 守 和彦

4 機関紹介 所長 守 和彦

5 議事

(1) 評価部会の運営について

(2) 事業紹介（トピックス）について

イ 自動車関連産業特別支援事業

[質疑]

○館田副部長 技術者研修や個別検討会などに対応し、川下側の企業からのニーズを伺ったりご協力を頂いたりなどはされているのか。

○古川推進監 そのような形がとれると最も効果的だと思うが、例えば川下の自動車メーカーのニーズを直接伺って県内企業の皆さまに提示するのはなかなかできません。どちらかというとその逆で、県内企業から提案を頂いて、ある程度、煮詰まった段階で先程のような展示会とか個別に訪問したりという形で提案に出向くという形をとっています。

○館田副部長 東北大学 I I S 研究センターが関わっているマシンインテリジェンス研究会では、トヨタ自動車東日本(株)や(株)ケーヒンの方に運営理事になって頂いている。画像処理や組み込みソフト系中心ではあるが、そういった所で聞いて頂く事は可能なのでご活用頂きたい。また、I I S 研究センターの特任教授に昨年からトヨタテクニカルデベロップメント(株)の専務だった方に就任頂いており、なかなかメーカーに直接聞けない事でも、東北大学の立場でならいろいろお話し頂けるかもしれないので是非活用して頂ければと思う。

○古川推進監 ありがとうございます。

○内田部長 自動車は他の分野とちょっと性格が違うような感じがあるようで、多くの場合は現地の会社と一緒に開発していくことが多いが、自動車は中身の本質はどうも現地で開発するより、本社のある所で開発するようだ。生産技術に関わる事は現地がかなり重要で、そこが一番敷居が低いと思える。その次が部品関係。部品会社も全国で部品を作って供給する体制がある。地元はそういう意味では、多少敷居が高くなっていて、自動車の本質に関わる部分はさらに敷居が高くなっている。自動車会社側が一生懸命地元の実力を見ながら、これなら良いというところをやっているようだが、こうして下さいとはほとんど言わないでじっと様子を見ているという雰囲気を私は感じる。そんなことを意識してやられると良いのかなと思う。

○古川推進監 ありがとうございます。例えばこういった形で開発ターゲットを絞り込んで開発を進めて、ご提案できるくらいになったら、例えば大衡にあるトヨタ自動車東日本(株)の開発部門にご提案に上がったりされています。トヨタ自動車東日本(株)の大衡の方では開発関係ではボディー関係が中心とは思いますが、それ以外でもご提案すると、違う部署をご紹介頂いたりもしているので、ご提案を進めて参りたいと考えています。

- (3) 審議事項 (研究課題の事後評価について) (非公開)
- (4) 審議事項 (研究課題の事前評価について) (非公開)
- (5) 報告事項 (平成26年度評価部会審議結果への対応について) (非公開)

6 挨拶 宮城県産業技術総合センター 副所長兼事務局長 渡辺 龍明

7 閉会